



平成30年度

# 北海道八雲養護学校学校評議員会だより



平成30年度北海道八雲養護学校第1回学校評議員会を6月20日(水)に本校校長室において開催しました。

第1回評議員会では、校長挨拶、辞令交付のあと、校長から「今年度の学校概要及び経営について」の説明、その後、教頭から「今年度の学習活動の概要について」等の説明を行いました。

その後、意見交換として、評議員の方々から、今後の学校経営等についてのご意見をいただきました。

## 【平成30年度北海道八雲養護学校 学校評議員】

※敬称略

所属等	氏名	備考
独立行政法人国立病院機構八雲病院 理学療法室長	三浦利彦	継続
北海道八雲養護学校卒業生	石前翔平	継続
北海道八雲養護学校後援会長	大久保建一	継続
八雲町教育委員会学校教育課参事	本庄伯幸	継続
八雲町役場住民生活課 課長補佐	菅原真紀子	継続

※大久保評議員欠席

## 学校からの説明の概要

### <校長から>

#### ○ 学校経営方針について

- 学校教育目標は、このような姿で高等部を卒業させるという子どもたちとの約束であるが、その姿は一人一人異なる。そのために、病院、保護者との連携は重要であることから、個別の教育支援計画に支援者としての病院と保護者を明記するよう意識するよう教員に伝えている。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためには、子どもたちに「知識」だけを教えるのではなく、自ら考える力を育成することが大切である。それが将来に渡って使える力へとつながっていく。
- 今年度のキーワードは「チーム八雲で、創造と実践、確実な力を」(協働、創造、実践)である。協働することで、ある程度の学校課題は解決できる。教職員が協働の意識をもって業務を行うことが大切である。

### <教頭から>

#### ○ 特色ある教育活動について

- 遠隔システムを活用した学習活動は、日常体験できない集団での学習を経験したり、自己肯定感を高めたりする学習につながっている。今後も継続して実施していきたい。

#### ○ 授業改善・指導力向上、専門性向上に向けた取組

- 昨年度に引き続き、渡島教育局の指導主事を講師とした校内研修を実施するとともに、今年度は、冬季休業中に、大学の教授を招いた公開研究会を予定している。

## 各評議員からの意見

### 【学校と病院との連携について】

- 児童生徒一人一人の目標の達成のためには、病院と学校で目標を共有する必要がある。個別の指導計画は、一人一人の能力や状態に応じた達成されたかどうか判断できる目標を設定することが大切である。学校と病院が共通の将来像をもつために、児童生徒の一人一人の背景を把握するための話し合いの場を設けるなど、共通理解を図るための取り組みを行う必要がある。当事者の思いを汲むだけでは、適切な将来像を描くことはできない。職種の違うプロ同士として共通のコンセンサスをもつことが大切である。

### 【地域との連携について】

- 32年度に札幌へ機能移転することになっているが、これまでの教育実践を環境が変わっても継続していくことができるよう、さまざまな機関と連携して教育環境を引継いでいってもらいたい。
- 新学習指導要領では、よりよい教育活動を通して、社会で子どもたちをどのように育てていくのかということが求められる。そのためには、コミュニティ・スクール視点が大切である。教育の主体者として、それぞれの場所で適切な教育を行っていくことが重要である。

### 【ICTを活用した教育の充実について】

- 遠隔による授業は以前に比べると簡単にできるようになってきている。実際に顔を合わせた交流も大切だが、加えて遠隔による交流を行うことで効果的な教育活動につながる。テレワークについても、児童生徒がこのようなものがあるということが分かれば、将来について考えるきっかけとなる。また、できることが少なくなりがちになるので、ICTを使いこなせる、説明ができるようになるということにもつながるので、積極的に取組を行ってほしい。

## <校長から>

- 委員の皆さんの意見を踏まえて、考え直さなければならない点があつたが、そのことをすすめることにより、本校の教育活動を、自信をもってすすめていくことができる。
- 本校の教員は前向きで、熱意があるなどいいところがいっぱいある。先生方の取組をもう一歩進めていくために、今後たくさんの御意見をいただきたい。